

「情報公開文書」

研究課題名：胃 X 線検診のための読影判定区分を用いた診療放射線技師の胃 X 線読影精度の検討

研究責任者：千葉隆士（宮城県対がん協会がん検診センター）

1. 研究の対象

宮城県対がん協会が実施した令和 2～6 年度に実施した胃 X 線検診受診者、および日本消化器がん検診学会の読影補助認定技師資格を有した当院の診療放射線技師。

2. 研究目的・方法

【研究目的】

日本消化器がん検診学会は胃 X 線検査の精度向上などを目的に、胃がん検診専門技師による読影補助認定制度を設けました。胃がん検診専門技師による読影補助とは①適切な胃 X 線の追加撮影を行うこと②所見があった場合は読影判定（カテゴリー判定）をレポートとして読影医に提出することで、読影医の診断の補助をすることです。

診療放射線技師が適切な読影補助を実践するためには、胃 X 線の異常所見を的確に診断ができる読影精度（胃 X 線を読影する能力）が求められます。そのため、診療放射線技師の読影精度を客観的に評価し、読影精度が不足している技師に対して適切に指導や教育することは、胃 X 線検査の精度向上につながると考えられます。

【方法】

宮城県対がん協会が実施した対策型胃がん検診の受診者のがん登録情報、胃 X 線画像、受診票、医師の読影結果（胃炎の有無、要精密検査となった胃 X 線の読影判定）、電子カルテ情報を匿名処理化したうえで、研究代表者が指定したサーバー内で収集し管理します。

収集した受診者の胃 X 線画像を、当院の読影補助認定技師資格を有する診療放射線技師が読影し読影判定をつけます。放射線技師のつけた読影判定結果と読影医師のつけた読影判定結果を比較することで、放射線技師の読影精度を評価します。

【研究期間】

研究期間は 2025 年 12 月 22 日、倫理審査結果受理から 2028 年 3 月までです。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：性別、受診者番号、生年月日、検診時年齢、胃 X 線間接番号 など

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて受診者さまもしくは受診者さまの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも受診者さまに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：宮城県対がん協会がん検診センター
(TEL:022-263-1525)。研究責任者 千葉隆士。